



山田寅次郎 やまだとらじろう (1866-1957)

上州沼田藩主・家老職の家の次男として誕生。15歳、茶道宗偏流家元の養子になる。
東京薬学校(現・東京薬科大学)卒業後、語学を学ぶ。

幸田露伴、尾崎紅葉、福地櫻痴など文化人と交流。日本初のタウンページ「東京百事便」を発行。
オスマン帝国軍艦エルトゥールル号海難事故の義捐金を届けるためオスマン帝国(トルコ)へ。
皇帝アブデュルハミト2世に謁見、様々な命を受ける。

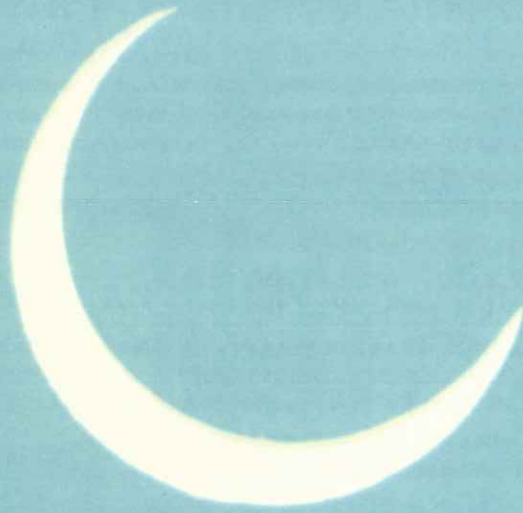
コンスタンチノープル(イスタンブール)に日本の商品を扱う中村商店を開店し、日土貿易を行うかたわら
伊東忠太、徳富蘇峰などオスマン帝国を訪問する日本人のサポートをした。

日露戦時、日本政府の依頼でボスポラス海峡近くから「バルチック艦隊」の動静を見張る。
日本に帰国後、製紙会社を設立し事業家として活躍後、57歳、茶道宗偏流八世家元襲名。

東洋と西洋が交じり合い誕生した「オスマン文化」から学ぶ、
心の豊かさとは？ (和多利月子)

天上の楽園・コンスタンティノープルで花ひらく

オスマン文化は、



山田寅次郎

オスマン

倶楽部

2022

OTTOMAN CLUB



1 文学

オスマン朝の文の世界と文人たちー伝統と変容 10月14日(金)

オスマン帝国は、尚武の帝国として知られるが、文事においても独自の世界を有していた。本講では、文学を中心に、オスマン朝の古典的な文の世界とその担い手としての文人たちの伝統がいかなるものであったかについて物語りたい。そして、さらに、このオスマン朝の古典的な文の世界と文人たちの伝統が、19世紀以降、「西洋化」としての「近代化」が進行していく中で、いかなる変容をとおぼえていったかについても、言及することとしよう。

講師：鈴木 董 すずき ただし 東京大学名誉教授・トルコ歴史学協会名誉会員

1947年藤沢市生まれ。東京大学法学部卒、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了、法学博士。1972-75年イスタンブール大学文学部に留学。1983年東京大学東洋文化研究所助教授、1991年同教授、2012年定年退職し東京大学名誉教授となり現在に至る。オスマン帝国史を専門とし、比較史・比較文化に関心をもつ。

2 美術

山田寅次郎が訪れた博物館：オスマン帝国末期の博物館事情 10月28日(金)

山田寅次郎は「土古畫觀」の中で、訪れた博物館や収蔵品に関して記述や挿絵を残しています。寅次郎が滞在したオスマン帝国末期には、社会の西欧化に応じて博物館が導入され、現在のイスタンブール考古博物館の前身である帝国博物館が開館されました。オスマン帝国領内の古代文明の遺跡や遺物にも注目が集まった時代でした。ヨーロッパに留学したオスマン・ハムディ・ベイ(1842-1910)は、法学を学ぶ傍らヨーロッパ画法を学び、画家としても知られていますが、考古学も修め、帝国博物館の2代館長としてトルコの博物館学や考古学に布石を打った人物です。オスマン・ハムディ・ベイを紹介しながら寅次郎が目にした当時のトルコの博物館事情をお話します。

講師：ヤマンラール水野美奈子 やまらーる みずのみなこ 元龍谷大学教授 NPO日本トルコ交流協会代表・国際トルコ美術史学会常任理事

1944年東京生まれ。慶應義塾大学文学研究科修士課程終了、イスタンブール大学にて文学博士号取得

3 都市空間

「オスマン都市」とその空間 11月11日(金)

13世紀末から20世紀初頭まで長きにわたって広大な領土を統治したオスマン朝／帝国の痕跡は、現代に到るまで文化・社会・宗教などさまざまな領域に刻まれています。特にバルカン半島からエジプト・シリアまでの旧オスマン領を旅すると、必ずオスマン時代の都市空間や建築を目にすることになり、オスマン的な空間のありかたが共有されていたことを実感します。では「オスマン都市」とはなんだったのか、その成立から近代にいたるまでを解説します。

講師：川本智史 かわもと さとし 東京外国語大学国際社会学部講師

工学博士(東京大学2013年) 著書に「オスマン朝宮殿の建築史」ほか

4 歴史と文化

トルコの歴史と文化について 11月22日(火)

トルコの悠久の歴史、現在のトルコ文化、生活やトルコ人について、そして来日して感じた日本とトルコの共通点や二国間の関係についてお話ししたいと思います。

講師：コルクット・ギュンゲン 駐日トルコ共和国大使

1968年イスタンブール生まれ アンカラ大学・政治学部・国際関係学科卒 エジンバラ大学・歴史専攻 修士課程卒 北大西洋条約機構国防大学(シニアコース、1997年)

5 遺跡

トルコ共和国の発掘現場から見る日本 1月20日(金) 2023年

東西文明の接点、トルコ。その93%を占めるのがアナトリア高原(小アジア)で、そこには優に一万を越すホック、テベ(人工の丘、遺丘)がある。そのいずれにも数千年から一万年の文化が重層して眠っている。現在も発掘調査を行なうカマン・カレホック遺跡にも一万年を越す文化が堆積しており、それを37年かけて上から一枚一枚剥がしながら「文化編年の構築」、つまり「年表」作りをしてきた。この長期にわたる調査結果をもとに、トルコからおよそ一万キロ離れた日本がどのように見えてくるかをお伝えしたい。

講師：大村幸弘 おおむら さちひろ (公財)中近東文化センター附属アナトリア考古学研究所所長、同センター理事長。

1986年来、アナトリア高原のほぼ中央部に位置するカマン・カレホック遺跡で発掘調査を継続している。専門は中近東考古学でヒッタイト帝国、特に「鉄」を専門とする。主著「鉄を生み出した帝国」。「アナトリア発掘記」、「トロイアの真実」など。

オスマン倶楽部 2022 全5回 会場参加会員 (人数制限有り)

時間：19:00～20:30 会場：ワタリウム美術館

● オスマン倶楽部 会場参加会員

全5回参加費：¥12,000

ワタリウム美術館 サポート会員：¥6,000 / アートパス会員：¥9,600

● 会場参加会員は、期間中、ワタリウム美術館への入館が無料になります。

申込方法

標題【オスマン倶楽部 会場参加会員】申込とし、氏名、連絡先【住所・電話番号・E-mail アドレス・会員番号(ワタリウム美術館会員の方)】をご記入の上、E-mail:watarium3@gmail.com へ、お送りいただくと同時に、下記の口座へ参加費をお振込ください。

振込先：三井住友銀行 青山支店(普) 1033281(名義) ワタリウム美術館

ご入金いただいた方へ【オスマン倶楽部会員証】を開催日3日前までに郵送いたします。

● 入金後のお客様のご都合による返金はできません。

● 携帯電話メールは、ワタリウム美術館からの返信が入らない場合がございます。ご注意ください。

オスマン倶楽部 2022 全5回 オンライン コース会員

「オスマン倶楽部 2022 オンライン コース会員」収録配信チケットを ArtSticker にて販売します。

● 配信期間：

1、2 2022.12.10 → 2023.3.31

3、4 2023.1.10 → 2023.3.31

5 2023.2.10 → 2023.3.31

● 配信期間中は、1～5 全5回の収録映像を何度でも視聴できます。

● オンライン コース会員料金

収録配信チケット【全5回セット】：¥4,800

申込方法

オンライン コース会員 ご購入は右記の専用サイトをご覧ください。

https://artsticker.page.link/osman_club

● 販売期間：2022.8.10 → 2022.3.31



販売サイトQRコード

